

2023年6月11日 説教「再び見えるように」

使徒の働き 9章 10～19節 a

先主日から使徒パウロの生涯を学び始めました。キリスト教徒を迫害していたサウロは、ダマスコへの途上でキリストと出会いました。しかし、その時にまばゆい光を受け、主の働きかけで、目が見えなくなっていました。

1. アナニヤへの促し (10～12節)

①呼びかけ (10) 「さて、ダマスコにアナニヤという弟子がいた。主が彼に幻の中で、『アナニヤよ』と言われたので、『主よ。ここにおります』と答えた。」

サウロはダマスコに入るようにと言われましたが、目が見えず、周りの人々に助けられてようやく、ダマスコの町に入りました。さて、ダマスコの町に、アナニヤというキリストの弟子がいました。彼の所に主が幻のうちに、臨まれました。彼は即座に応えました。そこに彼の信仰が表れています。

②サウロを尋ねよ (11) 「すると主はこう言われた。『立って、[真っすぐ]という街路に行き、サウロというタルソ人をユダの家に尋ねなさい。そこで、彼は祈っています。』」

主の言われることはこうでした。ダマスコの町にいるサウロという人を尋ねなさい、ということです。サウロは、真っすぐという街路にある家にいるらしいのです。彼は学問の都タルソ出身でユダヤ人だといひます。今、彼はそこで熱心に祈っているということです。

③サウロへの幻 (12) 「彼は、アナニヤという者が入って来て、自分の上に手を置くと、目が再び見えるようになるのを、幻で見たのです。」

彼には幻が与えられていて、アナニヤという人がやって来て、自分の頭の上にお手をおいてくれるということです。目が見えなくなっているサウロは、その時に再び見えるようになることもその幻で示されていたということです。

2. サウロについて (13～16節)

①アナニヤの返答 (13) 「しかし、アナニヤはこう答えた。『主よ。私は多くの人々から、この人がエルサレムで、あなたの聖徒たちにどんなにひどいことをしたかを聞きました。』」

主からのこのようなお言葉を受けたものの、アナニヤはあまり前向きな応えはできません。『お言葉ではありますが、サウロという人については、良い話を聞いていません。彼はエルサレムで、あなたの聖徒たちに、ひどい迫害を加えてきた人です。それは、多くのクリスチャンが認めるどころです。とてもではありませんが、助けることができません。』

②ダマスコでも (14) 「彼はここでも、あなたの御名を呼ぶ者たちをみな捕縛する権限を授けられているのです。」

「だいたい、彼がこのダマスコの地にも、イエスさまの御名を信じる者達を捕縛する権限を大祭司から授けられて、向かってきた筈です。場合によっては、今ごろ多くのクリスチャンが捕縛されていたかもしれないのです。」

③選びの器 (15～16) 「しかし、主はこう言われた。『行きなさい。あの人は



わたしの名を、異邦人、王たち、イスラエルの子孫の前に運ぶ、わたしの選びの器です。彼がわたしの名のために、どんなに苦しまなければならぬかを、わたしは、彼に示すつもりです。』

ところが、主御自身はアナニヤの訴えを聞いても、『行きなさい』と、かなり強く命ぜられました。その理由は、彼こそは、キリストの名を、異邦人にまで伝える人で、国を越えた王たち、イスラエルの子孫たちにも伝える人となるというのです。彼こそは、キリストが選ばれた器だと言われるのでした。これらはサウロでなければ、できない仕事とも言われているのです。ただ、サウロはかつて、キリストの名を汚していた人でしたが、今度はその御名のゆえに苦難を味わうことになるということについては、知らせるつもりだとも仰いました。

3. サウロは立ち上がり (17~18a 節)

① サウロに手を置き (17) 「そこでアナニヤは出かけて行って、その家に入り、サウロの上に手を置いてこう言った。『兄弟サウロ。あなたの来る途中、あなたに現われた主イエスが、私を遣わされました。あなたが再び見えるようになり、聖霊に満たされるためです。』

主からのお言葉を受けて、アナニヤはサウロの所に行くのを、御心と受け入れ、出かけて行きました。そして、知らされていたユダヤ人の家に入りました。そこにサウロがいるのを確認すると、挨拶もそこそこにして、彼の頭の上に手を置きました。そして、サウロを主にある者と認め、「兄弟サウロ」と呼びかけました。「私はあなたがダマスコ途上で出会った主イエスから派遣されてきました」と告げると、さらに「あなたが再び見えるようになり、聖霊に満たされるために、やって来たのです。」と伝えました。

② 目からうろこ (18a) 「するとただちに、サウロの目からうろこのような物が落ちて、目が見えるようになった。」

この言葉を受けると、サウロの目は見えるようになりました。「目からうろこのようなものが落ちて」とありますが、目を見えように閉ざしていたものが、取り払われて、見えるようになったのです。

③ バプテスマ (18b~19a) 「彼は立ち上がって、バプテスマを受け、食事をして元気づいた。」

サウロは目が見えるようになって、人の助けなしに立ち上がりました。そして、アナニヤから、キリスト者として告白し、バプテスマを受けました。そして、三日間絶食していましたが、食事をして体にも元気を得ました。こうしてよいよ、サウロの新しい人生が始まっていくこととなります。

《結論》

18 節に「目からうろこのような物が落ちて」とありますが、「目からうろこ」という言葉は聖書から来ていたのです。私たちの今年の御言葉「狭い門から入りなさい」も入学難関の学校について「狭き門」として使われます。また、「豚に真珠」(マタイ 7:6)も聖書からでした。覚えておきたい聖書の豆知識です。

さて、今朝の聖書箇所ですが、アナニヤとサウロは、当時のキリスト教会にあっては対照的な二人でした。アナニヤは「律法を重んじる敬虔な人で、そこ

に住むユダヤ人全体の間で評判の良い人」(使徒 22:12)でした。一方のサウロは前回学んだように、キリスト教徒を迫害していましたから、キリスト教会の多くの人々からは大変に警戒される人物でした。以下に二人のことを比較検討していきます。

まずアナニヤですが、主からの御声を聞いたときに、即座に『主よ。ここにあります。』と応える、忠実な信仰者でありました。ところが、主は、目が見えなくなっている、サウロの目が見えるようになるために出かけなさい、と言われたのです。しかし、サウロは自分達の仲間のクリスチャンにひどいことをして来た人物です。その人を助けることなど到底できないと思い、率直にそれを主に伝えたのです。しかし、さらなる促しのお言葉を受け入れて、彼は出かけて行きました。そして、サウロが滞在する家に着くと、アナニヤは『兄弟サウロ』と呼びかけています。その上で、自分が主から遣わされて来たことを告げ、頭に手をおいて、『見えるようになりなさい。』と宣言しました。すると、サウロは再び見えるようになったのです。サウロはそこでバプテスマを受けました。ここで注目したいのは、アナニヤには主なる神が、サウロに手を置いて、目を再び見えるようにする賜物を授けられていたということです。また、バプテスマを授ける権限も与えられていました。教會的に言えば、牧師のような存在として認められていたのかもしれませんが。

サウロはアナニヤが来る前の時点において、キリスト教会の人々からすれば、迫害者でした。しかし、そんなサウロについて、主は『行きなさい。あの人はわたしの名を、異邦人、王たち、イスラエルの子孫の前に運ぶ、わたしの選びの器です。』と言われたのです。つまり、サウロという存在が異邦人世界にまで、福音を宣教していく選びの器であると宣言されているのです。サウロが迫害者からキリスト教徒となり、さらに宣教者として立てられるというのです。「選びの器」とありますが、神の恵みによって授けられた特別の存在だということです。人間的に言えば、サウロは迫害者でしたから、にわかには信じがたい事です。しかし、キリスト史を見れば確かに、このサウロこそ、キリスト教が野火のように、世界に広がって行くときに、その中心にいた人でした。この事実は、神の一方向的な選びによって、サウロが立てられたことがわかります。

サウロが改めて目を開けられ、バプテスマを受け、宣教へと進むためには、アナニヤの働きが必要でした。アナニヤの信仰奉仕があったからこそ、サウロは選びの器としての働きを始めることができたのです。

サウロという人は確かに特別に選ばれた器であることは間違いありません。しかし、私たちも実を言えば選ばれた者たちです。「神は私たちが世界の基が置かれる前から彼にあって選び、御前で聖く、傷のない者にしようとされました。」(エペソ 1:4)とある通りです。気を付けてください。私たちが主を選んだのではありません。主が「あなたがたを選び、あなたがたを任命したのです。」(ヨハネ 15:16)選ばれたということは、私たちに何か良い点があったからではなく、恵みです。この恵みを確かめつつ、感謝をもって福音に生き、サウロのごとく福音を証ししていきましょう。